

Nursing Star

for Community

日精看ニュース
No.745

特集

日精看presents.

わたしが見つけた!

アート写真 コンテスト

第6回 受賞作

Art Photo Contest

精神障がい者の日常を彩る表現活動と、それを支えるサポーターたちを応援する「わたしが見つけた!アート写真コンテスト」も、6回目を迎えました。今年も、観るだけで感性が刺激されるような多彩な作品が集まりました。受賞作12点と作者の喜びのコメントを紹介します。

各分野の専門家による 厳正なる審査会が行われました

作品の募集は、本誌とホームページ、公式SNS上で募り、前回は上回る90超のご応募が集まりました。審査会は2021年4月20日に開催され、昨年と同様にWeb形式での実施いたしました。今回より、新たに「西岡由江賞」が加わりました。

審査員(敬称略)……犬塚潤一郎(実践女子大学生生活学部現代生活学科教授)、上坂真人(株式会社MAGUS代表)、岡山慶子(株式会社朝日エル会長)、北村美和子(東北大学災害科学国際研究所/フォトグラファー)、櫻井龍子(一般財団法人日本カメラ財団理事長)、末安民生(一般社団法人日本精神科看護協会相談役/佛教大学保健医療技術学部教授)、永岩謙一(東洋羽毛工業株式会社代表取締役社長)、西岡由江(一般社団法人日本精神科看護協会業務執行理事/社会福祉法人ファミリーユ高知高知リハビリセンターセンター長)

審査員長は、当協会会長の吉川隆博が務めました。

受賞作の写真展が開催されます!

第5回・第6回の受賞作を中心に約30点が展示される写真展が、2021年7月13日(火)~18日(日)、東京都千代田区「JCIIクラブ25」にて開催されます(10~18時開館・観覧無料)。詳細はJCIIのホームページをご覧ください。



夜に向かう時

(2021年撮影)

作者/宮口聖恵さん(岡山県)
まくらぎクリニック
訪問看護ステーション デューン倉敷



作者・宮口さんのお話

3度目の受賞、それもなんとグランプリと聞いてとても驚くとともに、喜びで胸がいっぱいになりました。

この作品は、写真が縁で知りあった夫と一緒に、カメラをもって近所まで出かけたときに撮れた1枚です。季節は冬、雨が上がり、日が沈みかけて街に明かりが灯りはじめた頃。大きな水たまりにピントを合わせて撮りました。小さな白い点として写っている中央の街灯に、右側の人物が向かっていくように見える奥行き感が気に入っています。

初めての受賞作もそうでしたが、「水たまり」は私にとって魅力的な被写体です。見る角度によって、そこに映り込む世界は変わり、まあるく見える世界は現実よりも美しく見えます。この魅力は、写真を撮らなければ気づかなかったかもしれません。「また水たまりの写真を撮れる」と思うと、雨が憂うつではなくなり、雨上がりの散歩が楽しみになりました。あらためて、写真を撮る喜びや奥深さを感じています。審査員の皆さま、ありがとうございました。

お礼と併せてご報告があります。この度、第一子を授かりました。来年の今頃は母としての人生を歩んでいる予定です。これからどんな作品を撮りたくなるのか、自分でも楽しみです。

写真を通じて知りあった仲間とも交流が続いています。以前、交流の場になっていたギャラリーに集まることは(新型コロナウイルス感染予防の観点から)今はかたがたありませんが、会えない代わりにグループでインスタグラム(画像投稿型SNS)を使っ

て、作品を紹介する活動を始めました。アカウントは「@onomichi_photolaboratory」です。海外からも「いいね!」がつくこともあり、励みになっています。よかったらのぞいていただけたらうれしいです。

私がこのコンテストに応募したのは、殿堂入り作家の先輩、Sato-Cさんの作品に胸を打たれたことがきっかけでした。3度目の受賞ということで「殿堂入り」の扱いになるとうかがい、背筋が伸びる思いです。これからも写真を楽しんでいきたいと思っています。

Comment

夕暮れ時の風景をあえてモノクロで表現したこの作品は、応募作の中でも圧倒的な存在感を放っていました。水たまりの中に映った世界が透明感のある美しさで、奥行きのある構図に引き込まれます。想像をかき立てられる作品です。



審査員長・吉川隆博
(一般社団法人日本精神科看護協会会長)

ぜひLINEにご登録ください!

LINE 日精看公式LINE





孫が作り出す虹アート

!(^^)! (2020年撮影)

作者/日野正人さん(島根県)
医療法人同仁会海星病院



作者・日野さんのお話

今回で3度目の受賞という知らせを受け、とてもうれしく、同時に驚きました。受賞した作品がたまたま撮れた日常の風景写真で、対象やテーマを決めて作品として撮る意識をもってシャッターを切った写真ではなかったので、少し意外でした。皆さんに気に入っていただけようでした。

この写真は去年の夏、可愛がっている孫がうちに遊びに来たときに撮った1枚です。よく晴れた日に水遊びをしていて、シャワーをもち上げた瞬間にできた虹。首から下げていたカメラで、偶然撮ることができました。この子は小さいときに病気がちで心配だったので、今は元気に遊んでくれていることが家族みんなの幸せです。

3度目の受賞をぜひ報告したいと思った看護師さんがいます。最初に応募するきっかけをつくってくださった通院先の看護師長のKさんです。2度目の受賞の前後に退職されてしまい、ずっと連絡が取れなかったのですが、私が連絡を取りたがっていることが伝わったようで、つい最近、ご本人からお電話をもらいました。

久しぶりにKさんとお話しし、「殿堂入り」を報告すると、びっくり仰天され、大変喜んで

てくださいました。長い入院生活にはいろいろありましたが、看護師のKさんが「日野さんが撮る写真はいいですね。私はとても好きです」と言ってくださったことが励みになりました。今度お会いできる約束もできたので、手製の作品集もお渡ししたいと思っています。

これからも撮影活動は続けていきます。鳥取県境港市にある「ベタ踏み坂(江島大橋)」で朝日を撮るのが、目下の目標です。「撮りたいもの」がある生活は楽しく、私の生き甲斐になっています。

Comment

写真は相手(在るもの)しだいです。移り替わる自然の写真では、来年を想定して向かい合うこともあります。一方、ある瞬間の機会もあります。出会いが記憶に留まるだけでなく、写真となる、それもまとまりのある形で。偶然が縁起と感じられる作品だと思います。



審査員・犬塚潤一郎さん
(実践女子大学生活科学部教授)



華の首飾り (2015年撮影)

作者/米内信雄さん(岩手県)
社会福祉法人盛岡市民福祉バンク3Rセンター



20代の頃の
米内さん。

作者・米内さんのお話

写真は昔から好きで、カメラ歴は20年ほどです。昨年、普段お世話になっている訪問看護師さんから「統合失調症の当事者として話をしてくれないか」というご依頼がありました。訪問した先の岩手医科大学にいたのが日精看相談役の末安先生でした。持参した写真作品を見せると熱心に見てくださって、その後、病気よりも写真の話題で盛り

上がったことを覚えています。今回、私の名前を伏せた状態でたまたま選んでいただいた審査員が末安先生だったと聞き、偶然の奇跡に驚いています。

私の写真は一切加工なし。撮った瞬間が完成品です。受賞作の紫陽花も「この瞬間は一期一会」というつもりで撮りました。今後は街中にも出かけて作品を撮っていきたくです。

Comment

控えめに青く発光する花の美しさによって、その後ろの背景が気になってくる。世界の奥行きを感じさせるような余韻を味わえます。そして受賞作がまさかコロナ禍で授業をお手伝いいただいた方とは。導きの糸は作品であり、仲介者の訪問看護師さんです。



審査員・末安民生
(一般社団法人日本精神科看護協会相談役)



君も友達 (2018年撮影)

作者/浅井誠さん(福岡県)
川上クリニック 福岡プライマリケア福岡



作者・浅井さんのお話

お世話になっている訪問看護師さんからの紹介で応募しました。受賞の知らせに喜んでます。1997年に、世界的に活躍する写真家・森上剣さんの作品の迫力に感銘を受け、撮影活動を始めました。これまで個展や受賞も何度か経験があり、写真は日常風景の“宝探し”のようなライフワークになっています。

この作品は、夕方の散歩の途中、野良猫が茂みから顔を覗かせた瞬間に構図が決まりました。同じ“目”をもつ存在として、人間とほかの生物は多くの共通点を持つ存在だと感じています。これからも、“人の痕跡”がうかがえる自分らしい構図を大切に写真を撮っていきたくと思います。

Comment

猫は毎回大人気の被写体ですが、この作品は圧倒的に迫力のある構図でした。そして何より、猫の目の美しさに惹かれました。



審査員・北村美和子さん
(東北大学災害科学国際研究所/フォトグラファー)



天国への階段 (2022年撮影)

作者/天池和子さん(愛知県) 社会福祉法人聖霊会聖霊病院

作者・天池さんのお話

写真を撮り始めたのは2年ほど前からで、フリーマーケットに出品されていた魚眼レンズカメラを買ったことがきっかけです。最初はインテリア雑貨のつもりで飾っていたのですが、せっかくだからと外に出て写真を撮りはじめました。

地元に戻って近くのお墓参りに行った際、昔使われていた古い階段を見つけて写真に撮りました。魚眼レンズは丸く写る

特徴があるので、「世界は見方次第で面白くなる」と教えてくれます。

受賞を知らされると、家族、ドクター、作品をプリントしてくれた写真屋さんが「おめでとう！」と喜んでくださり、うれしく思いました。写真を撮ることで、社会とつながっているかなと感じました。素晴らしい機会をつくってくださったことに感謝しています。

Comment

階段の先がだんだんと見えなくなって行って……。まるで秘密の世界に引き込まれていくよう。でも、そこには希望が確実にあることを感じさせてくれる作品です。



審査員・岡山慶子さん
(株式会社朝日エル会長)





木にもたれかかる

(2021年撮影)

作者／鶴口裕美さん(鹿児島県)
医療法人陽善会坂之上病院



作者・鶴口さんのお話

ついに念願の3度目の受賞！ この日が待ち遠しく、念願が叶ったような気持ちです。私の作品のオリジナリティである、コラージュの手法を使った作品を今回も評価していただいたことがとても嬉しいです。これからもこの作風で写真を続けていこうと自信ができました。

この作品は、自閉症の友人が「影が気になる」と言っていたことがヒントになり、近所の公園の地面に投影された木の影を撮ってベースにしました。花や柵などの写真の色を反転させて重ね、作品へと仕上げたのですが、「ここで完成」と決めるのが難しく、また奥深いと感じる点です。どんな色彩で作品を完成させるかが自分次第だというのが面白いです。「木にもたれかかる」というタイトルは、私が気に入っている木が思い浮かんでつけたものです。慈眼寺にある大きな木で、その枝に登って寝そべるのが好きなのです。

以前もこの欄で紹介していただきましたが、私にとって

写真は「こころの暗号」です。写真を通して自分のこころの様が見え、誰にもじゃまされことなく、自分を理解することができます。今年は地元の鹿児島県美術協会主催の県美展でも初受賞することができ、今回の受賞と合わせて大きな前進となりました。両親もとても喜んでくれます。これからも、写真を撮ることで誰かに勇気や希望を与えられるようにと、願いながら作品づくりを楽しんでいきたいと思っています。

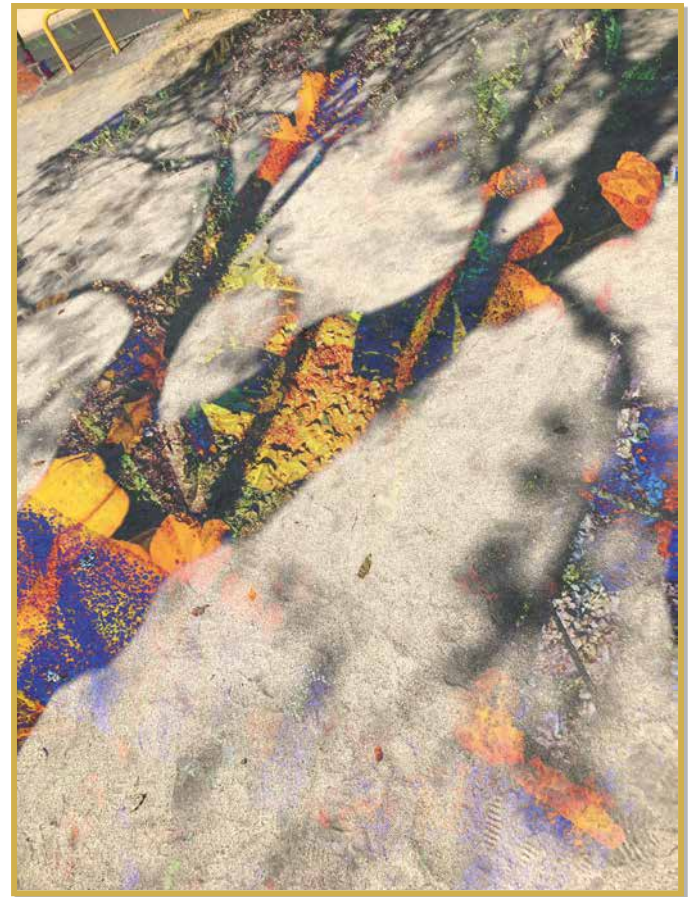
Comment

まるで現代アートのような世界に引き込まれます。写真は現実を撮影するものですが、独自の手法によって意味深いものにする。作品全体から豊かな感性が滲み出ています。



審査員・吉川隆博

(一般社団法人日本精神科看護協会会長)



母 (2015年撮影)

作者／杉山修さん(千葉県)
地方独立行政法人国保旭中央病院精神デイケアセンター
推薦者／出口文比呂さん(同ピアスタッフ)

作者・杉山さんのお話

今は亡き母と一緒に暮らしていた頃、自宅で偶然に撮れた1枚です。テレビを見て笑っている顔がいい雰囲気だなと、広角で少し横から見下ろすように撮りました。僕が写真を撮って腕を磨くことを見守ってくれていた母ですから、きっと天国で喜んでくれていると思います。

気に入った写真はA4や四つ切りサイズにプリントして、作品集として整理しています。すでに20冊以上になりました。

けれど自分が納得できる写真が撮れるのは100枚中1枚くらいです。次回も受賞をめざしてがんばります。

推薦者・出口さんのお話

昨年受賞した作品をデイケア内に飾っていたところ、杉山さんが月ごとに新作に差し替えてくれるようになりました。おかげで室内も明るくなり、写真の話題も増えました。今後、デイケアで写真のプログラムも開発できたらいいと考えているところです。



推薦者の出口さん(写真右)とともに。

Comment

“私”にとってこそ意味のある写真が、“他の人”の共感を掻きたてもする。今は会えない遠く親しい人への想いのように。具体で特殊なものが一般の力を持つと思わせられました。



審査員・犬塚潤一郎さん
(実践女子大学
生活科学部教授)



初収穫！ (2021年撮影)

作者／町田佳奈子さん(千葉県) 医療法人社団心癒会しのだの森ホスピタル

作者・町田さんのお話

通院先でチラシを見たのをきっかけに初応募で初受賞！ 自分でも驚きました。受賞作は、家庭菜園で育てたラディッシュを初めて収穫したときの写真です。野菜を種から育てるなんて小学生以来でしたが、病気が原因で休職したことで思わぬ体験ができました。「野菜は数ミリの種から、太陽と水と土でこんなに立派に育つ

んだ。そして、その野菜から私たちの体は育つんだ」。そう思うと、力が湧いてきました。太陽と青空を強調して撮りました。

受賞を知らせると、母は私以上に喜んでくれて、照れ臭い気持ちになりました。これからも、見て癒やされる作品や、誰かと共感できる作品を撮っていきたくです。

Comment

太陽の光に葉を透かして見せる撮り方や青・緑・赤の色彩がきれいです。爽やかな生命力を感じられるような作品です。



審査員・西岡由江さん
(一般社団法人日本精神科看護協会業務執行理事)



目指せ世界一 (2021年撮影)

作者／キューピーさん(東京都) 福祉事業所ストライドクラブ

作者・キューピーさんのお話

フィギュアやぬいぐるみを使って物語風のシーンを創作し、写真作品にしています。この作品で使ったのは、懸賞で当たったキューピー人形です。砲丸投げをするアスリートに扮したキューピーに、富士山の写真を背景として配置し、オリンピックで活躍する選手をイメージして撮りました。いつも「この被写体がイキイキと見えるには？」と被写体の

気分になって、構図を決めています。

3度目の受賞を家族や主治医、ストライドクラブの皆さんに伝え、「すごいね」「才能がある！」とエールの言葉をもらえました。僕にとって、写真は言葉以上に自分を伝えられる表現法です。カメラに挑む時間は、自分の個性が光る時間でもあります。夢中になれる時間をこれからも大切にしていきます。

Comment

スポーツが注目される今の時期ならではの旬の題材です。前向きなタイトルにぴったりな世界が表現され、ポジティブな気持ちになります。



審査員・櫻井龍子さん
(一般財団法人
日本カメラ財団理事長)

東洋羽毛
賞

【 大好き！チュッ (2020年撮影) 】

作者／栗原枝子さん(東京都)
立川パークサイドクリニック

Comment

空と花々、可愛らしい犬。思わず微笑みたくなるような、平和な風景に癒やされました。撮る人の愛情が伝わってくる作品です。



審査員・永岩謙一さん
(東洋羽毛工業株式会社
代表取締役社長)



作者・栗原さんのお話

20代の頃にパニック障害の診断を受け、通院しながら看護師免許を取りました。現在も通院を続けながら、訪問看護師として働いています。このコンテストのことは、日精看から届いたチラシで知りました。「記念になれば」くらいの軽い気持ちで応募したところ、まさかの受賞。同僚もビックリしていました。

普段からペットの写真を撮るのが好きで、この写真は愛犬の散歩中に公園で撮ったお気に入りの1枚です。仕事を離れてリラックスできる週末の朝、私のところが開いている様子が伝わってくるような写真になったと思います。

過去にとらわれず、今この目で見えているものを大切にしていきたいと常日頃から考えていますが、写真は“今この目で見えているもの”の表現を助けてくれるものです。普段、職場で利用者さんと接するなかでも、その価値は感じています。言葉で気持ちを伝えるのが苦手な方のこのころ模様が、絵画や写真といった表現活動を通じて伝わることがあるからです。

これからも一緒に暮らしている犬や猫、リクガメを撮ったり、普段の生活の中でところどころを動かされる自然の風景を写真に収める楽しさを味わっていききたいと思います。

上坂真人
賞

【 秘密 (2019年撮影) 】

作者／澁江麻衣子さん(岡山県)
トライピース事業所(就労継続支援A型)

作者・澁江さんのお話

写真を撮始めたのは6年ほど前です。たまたま友人から、中古の一眼レフカメラを譲り受けたことがきっかけでした。

この写真は、早朝のバラ園に行き行って撮りました。珍しい品種のバラに目が留まり、シャッターを切りました。まわりには誰もいなくて、私だけが咲きかけの瞬間に立ち会えたような気持ちになり、「秘密」というタイトルをつけました。暗めに加工することで、かえって花びらのピンクの華やかさが引き立ったと感じています。被写体の気持ちになって、「自分だったらどう写したらうれしいか」と想像しながら撮っています。

今後は人物撮影にもチャレンジしていきたいです。初めての応募作を選んでくださって、ありがとうございました。

Comment

私が選ぶ理由はいつも決まっています。「自分の部屋に飾りたいと思うかどうか」。この作品には、まさに飾りたくなる静謐かつ情熱的な魅力がありました。



審査員・上坂真人さん
(株式会社MAGUS代表)

ナーシング
スター賞

【 満開の桜の下でコーヒブレイク (2021年撮影) 】

作者／水森 takanon さん(神奈川県)
推薦者／医療法人積愛会横浜舞岡病院デイケア・看護師の田見綾乃さん

作者・水森さんのお話

この写真は、私が通っている横浜舞岡病院の敷地内にある桜の前で撮りました。左側の人物は私、右側のヘルプマークをつけている女性は私の婚約者です。デイケアのプログラムで出会いました。半年ほど前から、障がい者枠で老健施設で働きはじめたこともあり、人生が大きく前に進んでいる感覚があります。

撮影のときには、自分で写真のイメー

ジを決め、ほかの方にカメラのシャッターを押してもらいました。桜が満開になる日を二人で待って、やっと撮れた1枚です。

推薦者・田見さんのお話

3度目の受賞のお知らせを、デイケアのメンバーやスタッフ一同で喜びました。水森さんの写真は、日常の体験をナチュラルに伝えてくれます。コンテストでの評価は大きな励みとなり、写真をますます楽しむ様子を見て、私もうれしく感じています。

同じデイケアに通うメンバー、ペンネーム・翔準さんによる水森さんの肖像画(左)。右は作品にも登場する婚約者の女性。

Comment

後ろ姿であっても、二人の穏やかな笑顔が見え、談笑が聞こえてくるようです。“未来への期待”が溢れ、前向きな気持ちになれる作品です。



審査員・宮本恵理子
(「ナーシング・スター」編集人)

殿堂入りの作者

当コンテストに3回受賞した作者の方は、「殿堂入り」となります。殿堂入りの作者は、審査なしで最新の作品を誌面でご紹介しています。右は、第1～3回まで連続受賞を果たしたSato-Cさん(神奈川県)と山口優さん(京都府)から届いた最新作です。

また、今回、なんと5名もの新たな殿堂入り作者が誕生しました。おめでとうございます！

これからも素晴らしい作品を見せていただけることを楽しみにしています。

新たに殿堂入りとなった作者

キュービーさん(東京都) 水森 takanon さん(神奈川県)
鶴口裕美さん(鹿児島県) 宮口聖恵さん(岡山県)
日野正人さん(島根県)

殿堂入りの作者の作品から



【 雨粒 (2021年撮影) 】

作者／山口 優さん
(京都府)

【 静かの海 (2014年撮影) 】

作者／Sato-Cさん
(神奈川県)